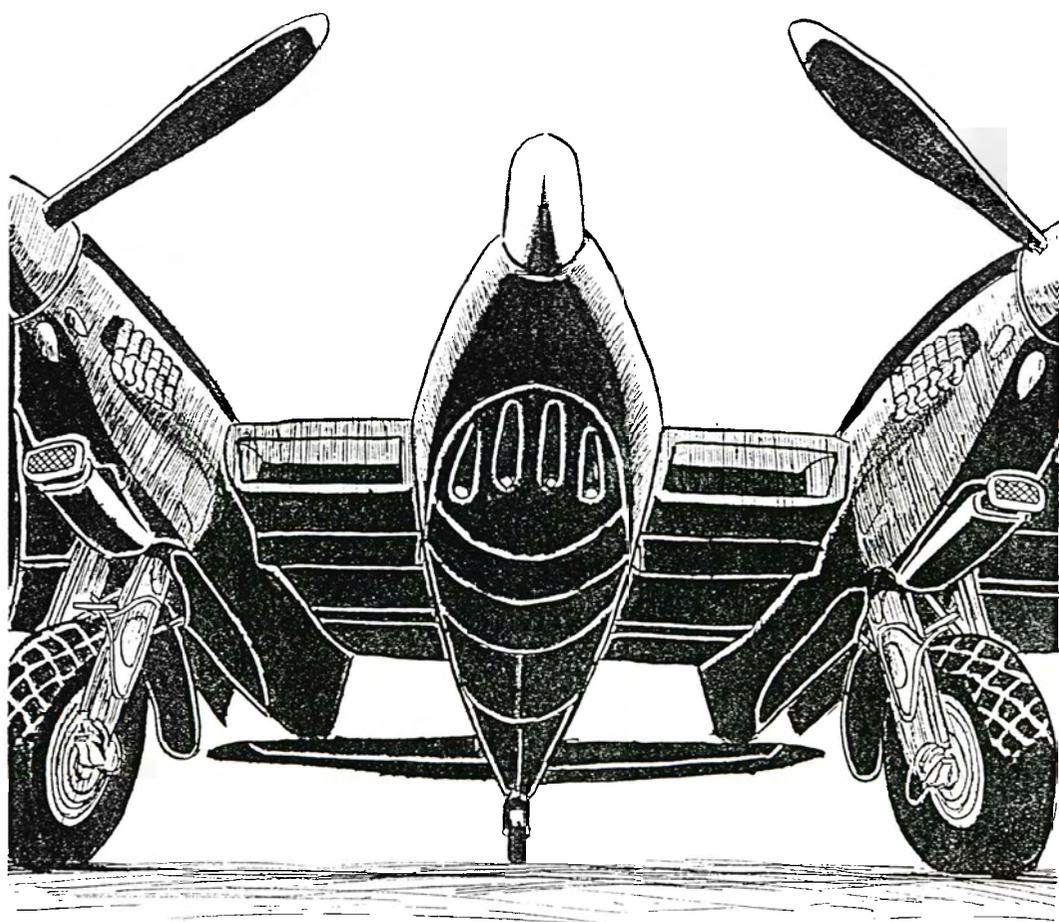


*FÜRSTENTUM  
ISABERIA  
MARINE  
FLIEGER  
TRUPPE.*

第20回結果発表  
(ゲーム時間：1944年12月)



今月の表紙：シーモスキートTR. Mk33  
マティーン大尉機

画：孝行 始

☆戦果報告

島津少将：ご苦勞であつた。諸君らの空爆によってレイテ島の米軍は一掃された。あとで調べたらロクに補給がなされていなかったというから、話にならん。上空支援の護衛空母も台湾戦の激化につれて撤収してしまった。敵の残存部隊も年明け早々に潜水艦で撤退してしまつたし、このところの負け続きから見れば大成功もいところだ。

だが、この半月かそこらで彼らはF6Fクラスの戦闘機が終日作戦可能な野戦基地を九分通り完成させていた。恐るべき設営能力と言えるだろう。

松平大佐：何だ何だこの人数は！限りある空母だから搭乗員も一定以上のものをもつて機体規制をしたらこれか？頼むぞ、オイ。・・・話にならんので、VEのK. Penn中尉にもVFと一緒に行動してもらつた。NPCがなかったら定数割れで出撃停止のところだ。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	SD	BS	SP	OP	階級	状態	機体
岬当麻	1 1	零式戦	金剛	ライ	2	0	3	1	准尉	軽傷	大破
	2 1	零式戦	古の武士	姜維 伯約					中尉	戦死	
	2 1	零式戦	古の武士	ブルムファスト					中尉	戦死	
	V F	烈風	シルフ	ディードリット	3	0	3	1 1	中尉	生還	無傷
	V F	烈風	Z Z	ルー・ルカ	2	0	3	3 1 1	中尉	生還	無傷
吉楽征二	1 1	1 9 0	フィーア	グスタフ・カール	0	0	5	4	准尉	軽傷	中破
	1 1	疾風	くまはれイェル!	ロバート・ウェルナー	1	0	2	0 1 1	少尉	生還	少破
	1 1	疾風	吹雪一家若頭	東雲 英治	0	0	2	5 1 0	中尉	重傷	撃墜
	2 1	P 4 0	ギャートルズ	デビッド・ジョンソン	0	0	1	1	准尉	生還	中破
	3 1	九九爆	峯風会組長	峯風 浩	0	3	1	3 3	准尉	軽傷	少破
				羽風 小次郎							
	3 1	天山	峯風会	灘風 則夫	0	4	1	7 3	少尉	生還	無傷
				矢風 剛				1 0 2			
				太刀風 進							
	3 1	8 7	北海の女王	ハント・ティルピッツ	0	2	1	1 4	少尉	生還	無傷
			コンラート・エムデン				1 0 2				
3 2	天山	睦月同盟四番機	菊月 絵里	0	2	1	1 4	少尉	生還	無傷	
			三日月 里美				2 1 5				
3 3	1 9 0	-	フリッツ・フォン・マルテル					中尉	戦死		
鈴木敬純	2 1	零式戦	伝国の玉璽	袁術 公路	0	0	1	0 7	少尉	軽傷	中破
	2 1	烈風	大空のサムライ	坂井 二郎	3	0	5	8 1 7	大尉	生還	少破
	3 1	彗星	-	伴 太一	0	1	1	3 6	少尉	生還	無傷
			遊川 和好				1 2 5				
井村和正	1 1	1 9 0	スニー・ソング	ガンサー	0	0	6	2	准尉	軽傷	撃墜
	1 1	1 9 D	見敵必殺	メルダース	2	0	5	0 1 3	大尉	生還	無傷
	1 1	P 5 1	炎の爆撃屋	赤根 武士	3	0	7	4 1 3	少佐	生還	無傷
菅原忠幸	1 1	P 4 0	牙炎	ロード・アトラス	0	0	1	1	准尉	軽傷	中破
	2 3	零式戦	大猿	タダイロウ・ミツカ					中尉	戦死	
	2 3	P 4 0	ビゼンコウ	ホ・ヒンメイ	0	0	1	1	准尉	生還	無傷
	2 3	疾風	ローレライ	クラバル・チュリアス	1	0	2	5 9	中尉	生還	中破
	2 3	震電	昇竜	リュウ・シキフネ	3	0	9	1 2 0	少佐	生還	無傷
	3 3	1 9 0	アース・ケイク	ゲン・ホー・キム	0	2	9	2	准尉	生還	無傷
	3 3	彗星	ファイアー・アロー	ウィリアム・ジェームス	0	3	2	8 6	中尉	軽傷	中破
				フィラデルフィア・カーマイン				2 3	少尉	重傷	中破
療養	P 4 0	人狼	キリーク・シマー					少尉	回復		
療養			リー・ツアイリン					大尉	回復		

篠原崇	1 3	零式戦	キリコミ隊長	遙華 鹿子					中尉	戦死	
	1 3	零式戦	元気だよ!!	本多 由紀子					中尉	戦死	
	1 3	1 9 0	翠玉女伯爵	レジーナ・ブライス	1	0	2 2	8	少尉	軽傷	中破
	1 3	1 3 0	妖精郷の女狩人	ベルフィービー	1	0	1 4	7	少尉	軽傷	少破
	1 3	1 9 0	ルノアール	イレヌ・カン・ダンゲルス					中尉	戦死	
	1 3	P 4 0	楯のピラミッド	島田 荘司					中尉	戦死	
	1 3	疾風	妖精の女王	神 弥生	0	0	1 7	7	少尉	軽傷	少破
	1 3	烈風	ハロ	フラウ=ボウ	1	0	3 4	1 0	中尉	生還	少破
	1 3	烈風	くいんまんさ♡	エルピー・プル	0	0	2 7	9	中尉	軽傷	少破
	1 3	3 3 5	Blau Blitz	エル=プライス	2	1	6 1	1 7	大尉	生還	無傷
	1 3	T B F	ラテル&アプロ	神 千尋	0	2	5 4	1 0	大尉	軽傷	中破
				北海 熊五郎			4 9	8	大尉		
				九条 仁美					中尉	戦死	
			神 亜由美					少尉	回復		
遠藤誠	1 1	零式戦	アフロディーテ	ハイムダル	0	0	5	4	准尉	軽傷	撃墜
	1 1	P 4 0	ヴァルキリー	アルベルト・フォン・クロイツェル					中尉	戦死	
	1 1	P 4 0	レッド・パロン	フォン・リトホーフェン	1	0	1 4	9	少尉	生還	無傷
	3 2	1 9 0	暁の傭兵団	アーティガル	0	2	1 4	4	少尉	軽傷	中破
3 2	1 9 0	暁の傭兵団	クーロモント					大尉	戦死		
炭谷英範	2 1	零式戦	2 2 4	藤原 忍					中尉	戦死	
	2 1	零式戦	9 9 7	早見 秀一郎					中尉	戦死	
	3 1	1 9 0	月見月	新田 吉秋	0	1	5	2	准尉	軽傷	少破
	3 1	1 9 0	雪見	神無月 京子	0	1	5	2	准尉	生還	無傷
3 1	1 9 0	ハーミスト	中村 玲子					中尉	戦死		
秋信敏男	1 1	疾風	—	J. E. Warnock	2	0	4 0	1 7	中尉	生還	無傷
	2 1	零式戦	—	J. Musser	1	0	2	1	准尉	軽傷	中破
	3 1	1 9 0	—	佐々木 吉雄	0	1	1 6	8	少尉	軽傷	撃墜
	3 1	彗星	—	斉藤 武	0	1	2 5	7	中尉	生還	無傷
	V E	烈風	—	田島 昌治							
			—	K. Penn	0	0	4 0	9	中尉	生還	無傷
戸島基貴	1 1	零式戦	ゲーム・フランシュユN	マクシン・レナードフォード	0	0	7	5	准尉	軽傷	少破
	1 1	零式戦	ブルー・ホーネットB	リクター・ラディアス	1	0	6	4	准尉	生還	無傷
	1 3	零式戦	BERSERGA	KAIN Mc. DGAL	0	0	1	1	准尉	軽傷	撃墜
	2 1	零式戦	陽炎	孟秋 愛発					中尉	戦死	
	2 1	零式戦	震撼	初秋 鈴鹿	0	0	2	2	准尉	生還	無傷
	3 1	彗星	玄武	飛 龍	0	2	1 6	5	少尉	軽傷	少破
				リマーク・セファー・ローレンス					中尉	戦死	
	3 1	九九爆	アーク・エンジェル	ミカエル	0	1	4	2	准尉	生還	無傷
			ガブリエル								
3 1	天山	Tod Schatten	カール・ボーレン	0	1	8	2	准尉	軽傷	少破	
			アルフレート・ハルバッハ								
			ゲーハルト・ブリュックハー								
3 1	天山	キング・オブ・ヌメーラル	タル・ミニナトウア	0	2	8	2	准尉	軽傷	少破	
			タル・アマンディル								
			タル・メネルデュア								
野口忠	2 1	零式戦	火	八神 空八					中尉	戦死	
	3 2	九九爆	山	メシユア	0	0	1	1	准尉	軽傷	少破
	3 3	1 9 0	風	ミライ							
			マック	0	1	3	1	准尉	軽傷	少破	

## ☆状態欄解説

生還…文字通り 軽傷…ちょっとした怪我 重傷…文字通り。治療費以外無料で休める  
戦死…文字通り 事故…事故死。特進の対象にはならない 回復…ケガ・病気が全快

## ☆機体欄解説

無傷…文字通り 少破…軽いダメージ 中破…少し痛いダメージ 大破…使用不能  
撃墜…文字通り 喪失…母艦／基地攻撃による喪失 墜落…前記以外による喪失

## ☆次回作戦

### 《基地》

少将：イエールの連中が和平交渉を有利に運ぶため、一気にうちの主力を潰しにかかってくるらしい事がわかった。主力は海軍だが、空母はいない。ただし基地航空部隊がエアカバーについてくるらしい。戦力構成はほとんどが「輸入品」で部隊としての統制はヒヨコ同然と考えていいだろうが、航空隊にはあの独雷安土がいる。我々もリュウ・シキフネ少佐、坂井二郎大尉、エル＝プライス大尉といったベテランを擁しているとは言え、気を引き締めてかからんと深手を負うことになるだろう。

### 《空母》

大佐：イエールの連中が砲艦の全力を投入して我々を消しにかかってくるぞ。ヘタをする、この戦争で最後の艦隊決戦が起こるかも知れない。そうなったらなつたで我々の方が断然有利だが、怖いのは基地航空隊によるエアカバーだ。撃墜王と当たることになる。また、敵には爆撃王もいる。事と次第によっては大負けするのが我々ということもありうる。そこで我々としてはそれを未然に防止するため、爆装機を集中的に叩き落す。ベテラン搭乗員多数の参加を切に希望する。

## ◇次回の編成

### 《基地》

飛行第101戦隊〈哨戒〉

第1中隊 第2中隊 第3中隊 第4中隊

飛行第102戦隊〈護衛〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波 第3中隊…第3波

飛行第103戦隊〈爆撃〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波 第3中隊…第3波

※103飛戦の者は、急降下／水平の別を選択してください。また、水平爆撃の者は通常弾とナパーム弾、いずれを装備するかも選択してください。

### 《空母（註）》

「瑞鶴」

V F…艦隊防空 V E…V S護衛 V S…対潜哨戒

註：零式戦・烈風・九九艦爆・S B D・天山・T B Fのみ参加可。

なお天山・T B Fで魚雷を積む場合は、800kgの搭載力を確保すること。

※空母シナリオは制式機使用キャラのみ選択可能です。  
※空母のキャパシティは80機です。あふれたものは基地飛行隊の第1波に回されます。

## PCリプレイ

101飛戦の哨戒飛行は第2・第4中隊参加者なしという状態で実行に移された。本土の基地からサマルまでは約200km、編隊巡航速度で行って小一時間ほどの距離である。まず第1中隊が上空に入っていく。その日もまだ基地は完成していなかったが、近海に配置されていた護衛空母から海兵隊のF4Uがすっ飛んできた。赤根武士のP-51Cが真っ先に接敵した。敵は一瞬混乱したか対応が鈍ったが、その隙に大部分の機体が乱戦に持ち込むことに成功した。割に新兵の比率が多いのが第1中隊の特徴とも言えるのだが、混戦になったときにはこれが災いした。P-40がけっこう誤射されたのである。これがまた紛らわしいことに、味方からはP-40、敵からはメッサーシュミットと思込まれたのだろう。おかげでアルベルト・フォン・クロイツェルなどは撃墜されてしまった。

こちらのうちドイツ機の大部分が燃料の限界に達し始めたところで撤収が始まったが、米軍の方もサッと引いてしまった。任務についての指示がよく行き渡っているのだろう。

これに引き続いて第1波の攻撃隊が侵入する。飛龍の彗星がまず投弾した。これがブルドーザー一台を破壊。……破壊し易い目標ばかりではあるが、なにしろ小さいので狙うのはかなり難しい。灘風則夫の天山はナパーム弾で物資コンテナ集積地を灰塵に変えてしまった。伴太一の彗星は宿舎（と言ってもテントである）に至近弾を一つ与えたのみである。この襲撃は最初から予期されたことでもあったし、対空銃座は最初から元気一杯だった。40mmクラスの機関砲弾が雨霰と舞い上がってくるなかでほとんどの機体は無傷同然、これは第1中隊にベテランが多いことを計算に含めてもかなりの驚異かも知れない。

若干の間を置いて第2波の爆装隊が到達した。これは戦闘機隊がいなかったため、そうでなければ間断ない攻撃が正午をはさんでしばらく続くはずだった。

もちろん戦闘機のガードが無いというハンデは大きく、アーティガルのFw190Gは対空砲火で被弾中破。クーロモントは爆撃後菊月絵里の天山をガードしに向かうところを迎撃のF4Uに喰われてしまった。味方爆撃機3機に対して敵戦闘機4機であるから、話にならない。もっともこの場合は戦闘機のガードがあってもあまり変わらなかっただろう。

続いて第3波の制空機が飛来する。クーロモントの犠牲はこの時生きた。熟練揃いの101飛戦第3中隊の登場である。4機のF4Uは瞬く間に全機撃墜の憂き目に遭う破目に陥った。もちろんこのあとに増援機が飛んでくるから、うかうかしているわけにもいかない。何しろ敵は護衛空母の満載機数30機をすべて戦闘機に充てていたのだ。これらは爆撃することもできるから、あながち間違った運用法でもない。すぐに103飛戦第3中隊が爆撃に入った。この頃までにナパームの使用で

対空銃座も静まってくるようになってきたものの、その弾幕はまだ悔りがたかった。それプラス26機のF4Uである。こうなると直掩の機体も併せて数的にイーブン、戦力から言ったらためらいなく彼らに軍配が上がる。零式戦は組織化されたF4U相手では、戦力とは呼べないからである。加えて例によって例のごとくドイツ機が燃料の限界に接して引き返し始める。こうなるともう無残としか言いようがないが、それでも爆撃隊は善戦した。神千尋のTBFの後部銃手、九条仁美は自分の命と引替りに自機を撃墜から守ったし、KAIN Mc. D GALに至っては自分の機体を盾にしてまでウィリアム・ジェームスの彗星を守った。リュウ・シキフネ少佐の震電も局地戦闘機故の脚の短さが仇になったか、残弾はあったし「撃てば撃墜」だったのだが、途中帰還を余儀なくされてしまった。

ところがどうしたことか、この日を最後に米軍はサマールから姿をくらましてしまった。後で情報を整理してみるとどうやら、手持ちの戦闘機が尽きた段階で手を引く予定だったらしい。それまで可能な限りイザベリアに出血を強いる作戦だったようなのだ。しかしどう考えても、30機そここのF4Uだけではワリのあう計算とは思えない。それだけ彼らは焦っていたのだろうか。

空母機の方は、もっとアクションに欠ける。もともと牽制にすぎないので派手な戦闘は望むべくもないのだが、正規軍の予備機を預かり、更に練度の低いパイロットを一手に引き受けて上空直掩専任艦になり下がってしまったのでは、まったくリプレイを書く身としても辛いところである。

イェール軍機の来襲は週に二、三度ぐらいの頻度であったが、来るのは大概小部隊の「いやがらせ爆撃隊」で、K. Pennはいつもちよつと場数の多いディードリットやルー・ルカに獲物を持って行かれてしまうのだった。ただし、敵の撃墜王「独雷安土」と何度か当たって生き残っているのだから、大したものだ。気になるのは敵の攻勢がやけにパツとしなかったこと。戦いも終盤に来ているのだから、一気に畳み込んできてもおかしくないはずである。もっともこっちの方が効果は大きかった。危なくて台湾まで出掛けることができないのだ。戦闘艦艇はいいとしても、補給艦が危険すぎる。……必要性はないとは言え、やはり同盟国が目前でタコ殴りに遭っているのを座視するのは忍びない。この辺がジレンマである。おまけに新型機の情報入手に齟齬をきたす。予定では航空便で沖縄を経由して来るはずだったが……今となつてはそれは不可能である。ただこっちの方はすぐ解決された。潜水艦で大量の設計図が輸入されたのである。日本のイ号などの潜水艦は艦隊決戦用で駆動音が騒々しく、図体も大きすぎるのでアテにならなかったが、逆にイザベリアのそれはUボートをコピー生産したものなので小さく、静かである。この辺が成功の秘訣だった。この情報は近いうちに戦線にもよい影響を与えるだろう。

(文責 岬当麻)